

抗議の要請文

原子力空母ロナルド・レーガンの横須賀入港に強く抗議する。横須賀基地から直ちに出て行くこと、原子力空母の横須賀母港化撤回を要求する。

米海軍第 7 艦隊司令官 フィリップス・ソーヤー中将 殿
在日米海軍司令官 グレゴリー・フェントン少将 殿
米海軍横須賀基地司令官 ジェフリー・キム大佐 殿

神奈川県労働組合総連合
新日本婦人の会神奈川県本部
神奈川県商工団体連合会
神奈川県平和委員会
安保廃棄神奈川県統一促進会議
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会
原水爆禁止神奈川県協議会

12 月 4 日午前 11 時頃、米原子力空母ロナルド・レーガン(以下 R・R)が、横須賀基地に入港した。これで、原子力艦船の横須賀入港は今年 16 回目、通算 954 回目となる。

9 月 8 日、原子力空母 R・R は「定期パトロールの一環」と称して横須賀基地を出港した。9 月 29 日から 10 月 1 日まで沖縄周辺から台湾南方の海域で、北朝鮮の核とミサイル発射に対抗する「威嚇」のための海上自衛隊との合同軍事演習をおこなった。その後、10 月 16 日から 20 日まで、米韓合同軍事演習を実施し、10 月下旬に米空母 3 隻を動員し日米韓の「弾道ミサイル防衛」の共同軍事演習の態勢を整え、11 月 11 日から 14 日まで、日本海で横須賀を拠点とする第 7 艦隊が、3 隻の空母と空母打撃軍による共同演習を実施した。その後、原子力空母 R・R は、フィリピン海に移動し、海上自衛隊との「年次演習」を実施し、12 月 4 日に横須賀基地入港した。

9 月以降、原子力空母 R・R が参加して北朝鮮の核開発と弾道ミサイル発射など緊迫した情勢の中で、軍事的圧力・威嚇をかつてない規模でおこなわれた。これらのことから、原子力空母の横須賀母港化は、次の点で重大な問題があり、改めて入港に強く抗議するとともに、原子力空母 R・R の横須賀母港撤回に強く要求する。

第 1 に、原子力空母 R・R の横須賀入港は、東アジア・北朝鮮をめぐる軍事的緊張を高める軍事演習を終えての入港である。これは、横須賀をアメリカの世界戦争の出撃拠点にするものであり断じて認められない。安保法体制のもと日米一体で戦争の拠点としての横須賀基地が軍事的に強化されるものである。このことは、北朝鮮問題の平和的外交による解決の道を閉ざすものでもある。

第 2 に、原子炉を搭載する原子力空母 R・R の横須賀入港・母港化は、3000 万人の首都圏住民を原子炉事故の危険にさらすものである。原子力空母の原子炉の安全性の検証と情報公開もされず、原子力空母は安全だ」という「安全神話」を押しつけている。原子炉事故対策もずさんでまともな原子力事故防災対策もない。首都圏は、巨大地震の発生確率が年々高まっている。住民を巨大地震や津波による原子炉事故の危険にさらし続ける原子力空母の横須賀入港・母港化は到底認められない。

第 3 に、原子力空母 R・R の横須賀入港は、厚木基地及び岩国基地周辺住民の艦載機の爆音被害、米軍機の墜落・落下物事故、米兵犯罪の被害にさらすことにもなる。

第 4 に、例年の状況から、原子力空母 R・R は、「原子力艦の修理は日本でおこなわない」としたエード・メモワールに反する危険な「定期修理」「放射性廃棄物の搬出」を年明けから 5 月にかけて横須賀基地で実施することが予想され、県民を放射能被害の危険にさらすことになる。

以上、県民の命と安全を脅かし、憲法 9 条をふみにじって日本を戦争に巻き込む原子力空母ロナルド・レーガンの横須賀入港・母港化に断固反対し、横須賀母港撤回を強く求めるものである。

以 上